

第105期第2四半期事業報告書

2010年3月1日～2010年8月31日

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

株式会社 テークスグループ
TAKES・GROUP LTD.
(旧社名 株式会社東京衡機製造所)
【東証2部上場（証券コード7719）】

TKS report vol.8

株主の皆様へ/企業理念



代表取締役社長
山本 勝三

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国経済は、一昨年の世界的な金融危機に伴う急速な景気悪化の後、政府の経済対策やアジア向け輸出の回復により一部に景気の持直しの兆しが見られるようになりましたが、円高やデフレ、日中問題など懸念材料も多く、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループは試験機事業や住生活事業、ゆるみ止めナット事業など様々な事業を手掛けておりますが、業績に大きく影響する企業の設備投資回復への動きは充分とは言えず、依然厳しい環境下にあります。当社といたしましては、この不況を乗り切るべく、今後も業務の効率化と経費の削減を進め、採算性の高い事業や成長性を見込める新事業に経営資源を重点的に投入するとともに、グループの優位性を活かし連携を強化することで高いシナジー効果を追求し、企業価値の向上に努めてまいります。

なお、当社は、平成20年9月に当社取締役会において決議した第三者割当増資に関係して当社の大株主関係者が金融商品取引法違反（インサイダー取引）容疑で逮捕・起訴された事件につきまして、本年3月に当社監査役会からの要請に基づき第三者委員会を設置し、事実関係の調査および評価分析ならびに改善事項の指摘を依頼していましたが、去る9月27日に同委員会より最終報告書を受領いたしました。当該報告書につきましては、その概要を公表しておりますが、当社といたしましては、第三者委員会の提言を受け、今後は、第三者割当増資の割当先選定手続きを厳格にし、当社に出資する投資ファンド等の実態把握に努めるとともに、情報管理などコンプライアンスに係る社内規程を厳格に運用し、さらに、本業である試験機事業の業績改善をはじめ安定的な収益体制の強化を進め、優良株主の確保に努める所存であります。

本件に関しまして、株主の皆様にご心配とご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げますとともに、今後もより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

contents

株主の皆様へ/企業理念	1
事業内容	2
事業の概況	3
特集 製品のご紹介	5
第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）	7
当第2四半期（累計）の業績	9
株式情報/会社概要/役員	10



TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY
「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と
顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、
“価値ある商品”を提供します。

地域社会への貢献

一人ひとりの“能力・意欲・創意を
尊重する”とともに、やさしさと
温かみのある人間集団を目指します。

人間性の尊重

日々の誠実な活動を通じ、
地域からも“信頼される
企業市民”であり続けます。

事業内容

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、
画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供するゆるみ止めナット事業など、
技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく、
様々な事業を展開しています。

試験機事業

試験機の開発・設計・生産からメンテナンス・
校正まで高度な技術力によりワンストップ
ソリューションをご提供しています。



試験機事業

住生活事業

中国子会社の金型成型技術を活かし
暮らしやライフスタイルに関わる生活用品や
アパレル関連商品等の企画開発、製造販売、
各種サービスのご提供を行っています。



住生活事業

TAKES・GROUP
Technology and Knowledge Enrich Society

ゆるみ止め
ナット事業

ゆるみ止めナット事業

グループ企業の株式会社KHIが画期的なアイデア
と独自の技術で開発したゆるみ防止スプリングを
内蔵したナットとナットの脱落を防止するスプリング
を製造・販売しています。



アジア地域における拠点

瀋陽特可思
精密機械科技
有限公司

無錫三和塑料
製品有限公司

上海参和商事
有限公司

KHI

TTM
東京試験機

TTC
テークス
テレコム

TTS
テークス
試験機サービス

TKS
テークス
グループ



事業の概況

当社グループの中長期的な経営戦略として、以下の3項目を掲げております。

1 試験機事業の 営業展開の強化

2 新規事業への積極的参入と 収益力の強化

3 住生活事業（旧民生品事業） の再構築

TKeS-GROUP
Technology and Knowledge for a Sustainable Society

試験機事業

試験機事業では、今後も引き続き試験需要が見込まれる環境関連分野と安定的に収益を確保できるメンテナンス・校正サービスの拡充に力を入れております。当第2四半期は、リーマン・ショック以降各企業が設備投資を抑制する中で、グループ会社間の連携強化を進め新たな試験需要の開拓に努めましたが、当社の売上に大きなウェイトを占める自動車関連業界向けの性能試験機や動力計の需要低迷を主因に期終盤まで厳しい状況が続きました。また、価格競争は依然として厳しい中で、顧客の要求する技術水準はますます高度化しているため、収益の確保に苦戦いたしました。今後

につきましては、緩やかながらも着実な景気回復の動きが見られ、企業の設備投資も回復しつつありますので、既存顧客へのサポートの充実に努めるとともに、プラスチック業界や医療関連業界など新たな産業分野への展開が可能な提携先のZwick社製品の拡販に注力いたします。また、当社グループの中核事業として、継続的に収益を確保できるように、品質管理部門の強化とメンテナンス・校正サービスの拡充を図るとともに、マーケティング・開発体制の整備・充実に従って新型疲労試験機の開発や付加価値の高い小型試験機のシリーズ化を進め、顧客満足度の向上に努める所存であります。

Testing Machine Business



交流動力計・コントローラLMC-1000

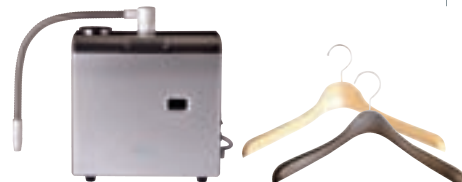
TKeS-GROUP
Technology and Knowledge for a Sustainable Society

住生活事業

住生活事業では、健康関連商品の販売など一般消費者向けの展開に力をいれ、様々な取組みを行っております。当第2四半期は、ミネラル還元水素水生成器の販売が好調でしたが、家庭で使える小型オゾン水生成器として普及を図っている「AQUA LOVE」は、価格的な問題で苦戦いたしました。また、中国瀋陽の子会社で製造している木製ハンガーやプラスチック部品の販売は堅調に推移いたしました。その他、小規模ながら不動産の販売や

太陽光パネルの販売なども行いましたが、事業全体としては、この不況の影響で厳しい結果となりました。今後につきましては、中国子会社の業績持直しを見込んでおり、主要拠点である無錫の子会社では、今までは家電製品等のOEM製造が中心でしたが、開発・設計も手掛けるODM (Original Design Manufacture) のウェイトを増やし、米国等への輸出のほか将来的には中国国内市場で販売することを計画しています。

Living & Lifestyle Business



オゾン水生成器

木製ハンガー

TAKES-GROUP

ゆるみ止めナット事業

ゆるみ止めナット事業では、電力、鉄道、高速道路、橋梁、プラントなど様々な業界に拡販活動を行い市場への浸透も進んでおりますが、当第2四半期は、公共投資の削減や民間設備投資の回復の遅れなど受注環境は依然として厳しく苦戦いたしました。また、小口径の汎用サイズのナットが生産数量との兼ね合いで原価高になっているためロツ

ト販売に時間を要し、さらに設備償却費等の負担もあり、売上・損益ともに計画を大きく下回る結果となりました。しかしながら、積極的なメーカー営業を進める中で、企業の研究所や設備担当部門にゆるみ止めナットの試用を依頼し良いテスト結果をいただき、さらに異業種メーカーと協力し製品に組み込んだ形でゆるみ止めナットを販売する

ことなども計画しておりますので、今後は景気の回復とともにこれまでの地道な販売活動が実を結び業績の改善につながるものと見込んでおります。



その他の事業

その他の事業につきましては、デジタル事業は、業務提携先の事業環境の急激な悪化に伴い本年5月に業務提携を解消したため、既存のネットワーク関連サービスは売上を計上できませんでした。また、当社は、本年6月17日に医療器械の製造販売等

を手掛ける会社と業務提携契約を締結し、中国子会社で医療機器の製造を受託し中国市場に進出することを計画しておりましたが、9月末に業務提携先の代理人弁護士より同社の債務整理を受任した旨および同社が自己破産申立予定である旨の通知

を受ける事態となったため、計画を中断し、業務提携を解消することいたしました。

「第13回 関西機械要素技術展」への出展

子会社の株KHIは、平成22年10月6日から8日にかけてインテックス大阪にて開催された「第13回関西機械要素技術展」に「ハイパーロードナット」と「ハイパーロードスプリング」を出展いたしました。「関西機械要素技術展」は、機械要素、加工技術を一堂に集めた西日本最大の専門技術展ですが、今回は北九州市のブースの中で出展させていただきました。株KHIは、平成20年に北九州市から「ハイパーロードナット」を「いち押しエコプレミアム」製品に選定していただいておりますが、このような機会を同社製品の普及につなげ、地域社会とともに発展する企業として成長していきたいと考えております。



【ハイパーロードナット】



【ハイパーロードスプリング】



INTERMEASURE 2010（第24回国際計量計測展）への出展

当社は、平成22年11月24日から26日にかけて東京ビッグサイトにて開催される計量計測業界最大規模の総合展示会「INTERMEASURE 2010（第24回国際計量計測展）」に、業務提携先のドイツZwick社の製品を出展いたします。

Zwick社はネジ式材料試験機分野では世界でNo.1のシェアを有し、その最先端の試験技術と高度な計測・処理技術が

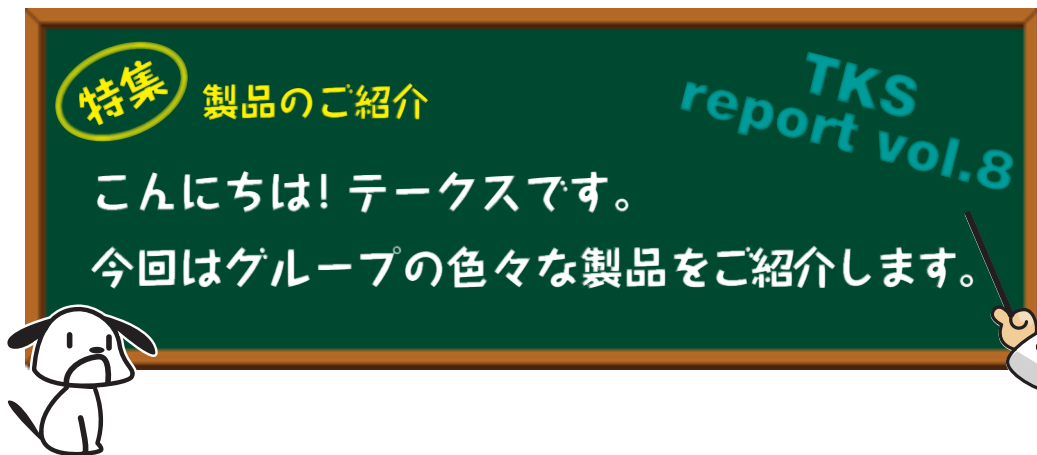


融合した材料試験機は全世界で高い評価を得ています。

今回出展いたします「Z050TH Allround-Line Table-Top 材料試験機（ビデオ伸び計測システム付き）」は、試験片の標点間の伸び計測、幅計測およびデータ処理を自動的に行うことができるようにビデオカメラが備え付けられた試験機です。当日は実機デモンストレーションも行いますので、皆様のご来場をお待ちしております。



■ 特集 製品のご紹介



高温クリープ試験機

各種金属材料の高温状態における長時間クリープの破断挙動を測定する試験機です。この試験機は原子力関係や航空宇宙関係などで広く使用されている耐熱材料の開発や評価、品質管理に不可欠なもので、特殊雰囲気中（He, CO, CO₂, CH, H₂等）での試験に対応するものや、大形クリープ（容量500kN）、シングルクリープ、マルチクリープ（6連式）など豊富なバリエーションを揃えています。

※「クリープ」とは、物体に持続的に力を加えることにより時間の経過とともに変形が生じる現象のことで、温度が高いほど変形の手度は速手ります。



自動温度調節器CF-1000D

CF-1000Dは、クリープ試験の効率化を目的として2008年に開発発売された製品です。近年世界的に各種発電プラントの効率化が求められており、クリープ試験の重要性は増えています。この製品は、販売以来約200台の納入実績があり、クリープ試験機の新規のご注文や既設製品の更新需要により好調な売れ行きを見せています。



(株)東京試験機製

小型卓上試験機 LSCシリーズ (リトルセンスター)

本装置はシンプルな機能により低価格を実現した小型卓上試験機です。手軽に持ち運びができ、ディスクワーク感覚で各種金属材料をはじめ・ゴム・プラスチック・紙・糸などの材料の引張試験が行えます。現場での作業性と操作性の向上を追求して必要最小限のボタン操作と見やすい表示、効率的な作業空間を確保しました。基礎研究や工程管理上の簡易評価に最適で、学校教材としても好評です。

- ・ 容量：200、500、1000N（3機種）
- ・ 試験速度：1～30、10～300mm/min（2機種）
- ・ 試験表示：デジタル表示（試験力・変位共）
- ・ 外部出力：DC 0～5V（試験力・変位共）



(株)東京試験機製

シャルピー式衝撃試験機 CI-300

CI-300は金属試験片を対象としたシャルピー式衝撃試験機で、手動でハンマーの昇降、落下、制動を行う基本モデルです。

この試験機は「JIS B7722」に規定されたシャルピー衝撃試験に対応し、落下させたハンマーの振り上がり角度から、試験片を破壊するのに要した衝撃エネルギーを測定することができます。

オプションとして、衝撃破壊時の荷重・変位を計測する計装化システムや、ボタンひとつで簡単に試験ができる電動タイプなども揃っています。

（画像の製品は安全カバー付き仕様です。）



第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

四半期連結貸借対照表

科 目	前第2四半期末 2009年8月31日現在	当第2四半期末 2010年8月31日現在
資産の部		
流動資産	3,435	3,032
現金及び預金 1	1,523	1,215
受取手形及び売掛金 2	1,141	982
たな卸資産	684	727
繰延税金資産	5	5
その他	178	138
貸倒引当金	△ 96	△ 36
固定資産	2,942	2,838
有形固定資産 3	2,436	2,292
無形固定資産	363	284
繰延税金資産	38	15
投資その他の資産 4	263	550
貸倒引当金	△ 160	△ 304
繰延資産	14	0
資産合計	6,392	5,871

負債の部		
流動負債	1,624	1,315
固定負債	1,355	1,781
負債合計 5	2,980	3,097
純資産の部		
株主資本 6	2,757	2,066
評価・換算差額等	653	689
新株予約権	—	18
少数株主持分	0	—
純資産合計	3,412	2,773
負債純資産合計	6,392	5,871

Point1 現金及び預金

売上高減少に伴う回収減や社債の償還などにより、前第2四半期末に比べ3億7百万円減少しております。

Point2 受取手形及び売掛金

売上高の減少により前第2四半期末に比べ1億58百万円減少しております。

Point3 有形固定資産

主な設備投資として大口径ゆるみ止めナット生産ライン1億3百万円があったものの、減損損失の計上98百万円、減価償却費の計上1億30百万円などにより前第2四半期末に比べ1億43百万円減少しております。

Point4 投資その他の資産

売上債権の回収遅延に伴い、破産更生債権等が増加しております。なお、貸倒引当金も同様に増加しております。

Point5 負債合計

売上高の減少に伴う材料などの購入減により、買掛債務（支払手形及び買掛金）が73百万円減少し、社債も償還により1億50百万円減少しましたが、長・短期借入金は調達により2億1百万円増加しております。

Point6 株主資本

前期末の貸倒引当金繰入や減損損失による特別損失の計上と当第2四半期純損失により6億91百万円減少しております。

四半期連結損益計算書

科 目	前第2四半期（累計） 2009年3月1日～2009年8月31日	当第2四半期（累計） 2010年3月1日～2010年8月31日
売上高 7	2,432	1,884
売上原価	1,747	1,447
売上総利益 8	684	437
販売費及び一般管理費	652	626
営業利益又は営業損失（△）	31	△ 189
営業外収益	28	20
営業外費用	77	57
経常損失（△）	△ 17	△ 226
特別利益	77	—
特別損失 9	88	48
税金等調整前四半期純損失（△）	△ 28	△ 275
四半期純損失（△）	△ 73	△ 322

Point7 売上高

売上高は住生活事業を除き厳しい状況となり、前第2四半期に比べ5億47百万円減少しております。特に試験機事業では受注環境の影響が大きく、前第2四半期に比べ3億25百万円減少しております。

Point8 売上総利益

売上高の減少に伴い、売上総利益は前第2四半期に比べ2億47百万円減少しております。また、売上総利益率は4.9ポイント悪化し、23.2%となりました。

Point9 特別損失

貸倒引当金繰入額33百万円、投資有価証券評価損15百万円を計上しております。

Point10 営業活動によるキャッシュ・フロー

主に税金等調整前四半期純損失により、前第2四半期に比べ3億42百万円減少しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期（累計） 2009年3月1日～2009年8月31日	当第2四半期（累計） 2010年3月1日～2010年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー 10	263	△ 79
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 38	△ 15
財務活動によるキャッシュ・フロー	213	18
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	△ 8
現金及び現金同等物の増加額又は減少額	455	△ 84
現金及び現金同等物の期首残高	1,003	1,206
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,459	1,121

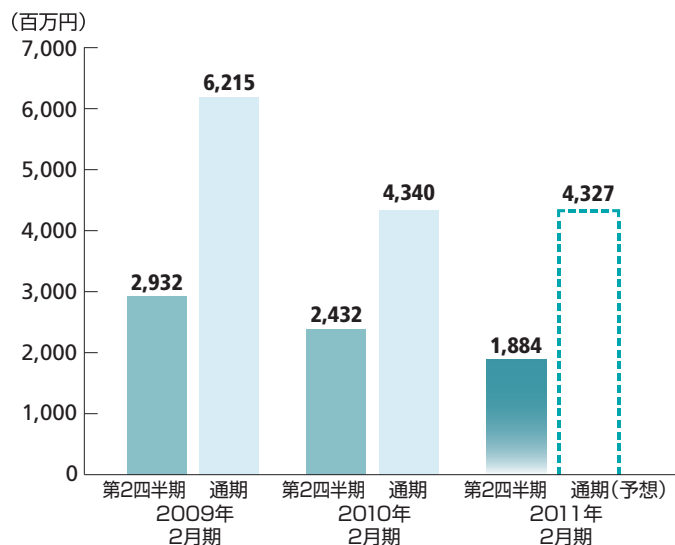
■当第2四半期（累計）の業績

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、アジア向け輸出の伸長による緩やかな回復基調や政府の経済対策による個人消費の改善傾向が見受けられたものの、欧州の一部の財政危機を契機とする金融・株式市場の不安に加え、円高の進行やデフレ、雇用情勢の低迷もあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは、試験機事業では、一昨年の世界的な金融危機の影響による大幅な需要の落込みへの対策を進め、期終盤に至り漸く受注環境の改善傾向が見られましたが、おしなべて厳しい状況が続きました。次に住生活事業では、デフレの影響で苦しい状況が続いておりますが、健康関連商品の販売など様々な取組みによる成果が表れつつあり、中国子会社を拠点として拡大する中国市場への展開を進めております。また、ゆるみ止めナット事業では、顧客基盤の拡大は順調に進んでいるものの、公共投資や民間設備投資の減少等により汎用サイズで売上が伸びず低迷いたしました。なお、デジタル事業は業務提携先のビジネス環境の激変により収益機会を見込めなくなったことから、新たな事業分野を模索しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,884,952千円（前年同期比22.5%減）、営業損失189,529千円（前年同期は31,994千円の営業利益）、経常損失226,853千円（前年同期は17,735千円の経常損失）、四半期純損失322,394千円（前年同期は73,412千円の四半期純損失）となりました。

売上高の推移



連結業績ハイライト (単位：百万円、単位未満切捨て)

科目	2008年 8月第2四半期	2009年 8月第2四半期	2010年 8月第2四半期
売上高	2,932	2,432	1,884
営業利益	96	31	△189
経常利益	58	△17	△226
四半期純利益	19	△73	△322
1株当たり四半期純利益 (円)	0.29	△1.03	△4.52
純資産	2,903	3,412	2,773
1株当たり純資産 (円)	43.38	47.83	38.64

株式情報 (2010年8月31日現在)

● 株式の概況

発行可能株式総数	260,000,000株
発行済株式の総数 [※]	71,337,916株
株主数	3,883名

※「発行済株式の総数」には自己株式22,292株を含みます。

● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	議決権比率
東京平成ファンド投資事業 有限責任組合1号	20,879千株	29.30%
株式会社A.Cホールディングス	6,500千株	9.12%
オカザキファンド 投資事業有限責任組合	5,242千株	7.35%
ニッセイ同和損害保険株式会社	2,016千株	2.82%
岡崎 由雄	1,050千株	1.47%
河野 博晶	1,006千株	1.41%
株式会社サンエーコーポレーション	935千株	1.31%
株式会社グッドワン	721千株	1.01%
堀澤 始	696千株	0.97%
SMBCフレンド証券株式会社	319千株	0.44%

会社概要 (2010年8月31日現在)

商 号	株式会社テークスグループ
本 社 所 在 地	神奈川県相模原市緑区三井315番地
登記上の本店	東京都千代田区内神田二丁目15番2号
創 立	1923年(大正12年)3月20日
資 本 金	27億1,355万2,013円
従 業 員 数	88名(連結563名)
事 業 内 容	試験・計測・計量機器、ロードセル、圧力検出器、歪ゲージ、トルク検出器等のセンサー類その他の関連機器の製造・販売、受託試験、プラスチック成型品、木工品、射出成型用金型の製造・販売、情報システムネットワーク機器の賃貸・保守・運用管理、ゆるみ止めナットの販売
建 設 業 許 可	国土交通大臣許可(般-20)第17917号 (機械器具設置工事業)

役員 (2010年8月31日現在)

代表取締役社長 (兼 企画統制室長)	山 本 勝 三
取締役副社長 (兼 執行役員住生活事業本部長 兼 企画統制室参与)	藤 井 勉
取締役副社長 (兼 執行役員管理本部長 兼 企画統制室参与)	平 岡 昭 一
取締役 (兼 執行役員デバイス事業本部長)	藤 澤 賢 憲
取締役相談役	岡 崎 由 雄
取締役 (KHI事業担当)	添 田 正 道
取締役 (兼 執行役員試験機事業本部長)	佐 藤 良 則
常勤監査役 (社外監査役)	細 野 幸 男
監査役 (社外監査役)	江 田 巧
監査役 (社外監査役)	管 野 善 則
執行役員 (試験機事業本部副本部長)	川 松 満

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主 確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社
同上連絡先	住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 ☎ 0120-176-417（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
公告の方法	電子公告（掲載 URL http://www.tksnet.co.jp ） （ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない 事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、単元未満株式買取・増担請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

テークスグループホームページ
<http://www.tksnet.co.jp/>

IR情報はこちらからご覧いただけます。



ロゴマークについて

“技術力” “独創性” “人” “伝統” 全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かうテークスグループの姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を「光のイメージ」に展開しています。

青：テークスグループの技術力

真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のニーズに的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、テークスグループの“技術力”を「青」で表現しています。

赤：テークスグループの独創性

万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。

情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、テークスグループの“独創性”を「赤」で表現しています。

緑：テークスグループの人

自然の美しさや木々の芽吹さを連想させる「緑」は、すがすがしさ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えたテークスグループの財産“人”を「緑」で表現しています。

紫：テークスグループの伝統

染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、テークスグループの“伝統”を「紫」で表現しています。

株式会社 テークスグループ
TAKES・GROUP LTD.

〒252-0151 神奈川県相模原市緑区三井315番地
TEL 042-780-1650 FAX 042-784-6094



環境に配慮したFSC™認証紙と植物油インキを使用しています